

現地の学校体験

学校訪問では、日本とアメリカの学校との大きな違いを感じました。アメリカでは、日本の中学校とは違い、クラス単位で行動するのではなく、授業は自分の受けた科目を選択し、その教室に授業を受けに行くという形なのです。校則もとても自由で、制服もなく、授業中にガムを噛んでいる子もいました。自由さに驚きましたが、そのかわりに自己の主体性が求められることを実感しました。

また授業では、タブレットなどのIT機器が一人一台ずつあり、それを使って授業を進めたり、本のレポートを書いたりしていました。僕はこのような授業を受けて、これからのIT社会に向けて、日本の学校もアメリカ同様に、パソコンやタブレットを使った授業をもっと取り入れ、技術を活用していくと良いのではないかと思います。

土浦第一中学校 大西治嘉はるか



姉妹都市 パロアルト 中学生交換 交流事業

土浦市および土浦市国際交流協会は、アメリカ、カリフォルニア州の姉妹都市パロアルト市と中学生の交換交流事業を行っています。今年も3月から6月にかけて第25回目となる交流が実施され、両市の中学生が互いの市を訪れてホームステイや学校訪問を通じて交流を深めました。

今回は、派遣生の現地での活動やホームステイについての感想をご紹介します。

また、交流事業について、詳しくまとめた「土浦市中学生交換交流事業実施報告書」をホームページに掲載しています。こちらもあわせてご覧ください。

ホームステイを体験して

私は、ホストファミリーに会うのをとても楽しみにワクワクした気持ちで出発しました。初日には、何組かのホストファミリーと一緒にショッピングや夕食を楽しみ、緊張が和らぎました。

ホストファミリーは日本人の方で、Googleのエンジニアをされていました。同じ日本人が海外で活躍している姿を間近で見ることができ、刺激を受けました。自宅では最新の家電やIT機器が生活に活かされ、見学したGoogle内のお店はキャッシュレスの支払いのみで現金が使えなかったことにも衝撃を受けました。日本でも生活の中にIT機器が普及し、キャッシュレス化も進んできていますが、近い将来こんな生活になるのかなと感じました。

今回、様々な体験を通して充実した時間を過ごすことができ、自分の視野を広げることができました。

土浦第一中学校 藤原彩羽いろは



Googleのオフィスを見学



パロアルト市に滞在中、近郊のGoogle社を見学する機会がありました。社内はとても広く、綺麗でユニークでした。社内には、個人個人で集中して仕事に取り組めるスペースや、すぐにアイデアが共有できるようにWeb会議ができる設備、そしてボードゲームなどで遊ぶことのできる、ちょっとしたリフレッシュのためのスペースまでありました。また、社内はとても広いので、移動にはカラルで可愛い自転車を使います。さらには7人乗りの自転車もあり、みんなでチャレンジしましたが、協力し合って進むのが難しかったです。

世界の最先端のITを生み出している会社の、働くのが楽しくなりそうなオフィスを見学して、将来自分もこんな環境で仕事ができたらいいな、という夢が持てました。とても貴重で素晴らしい時間でした。

土浦第六中学校 渡邊創太

両市は、今年、姉妹都市を締結してから10周年を迎えました。友好の絆をさらに深めるため、10月24日から5日間の日程で、パロアルト市よりエリック・フィルセス市長をはじめとする訪問団を土浦市にお迎えします。祝賀会を開催するなど、節目の年をともに祝いする予定です。

今年度の、中学生交換交流事業については、まもなく市立中学校の2年生を対象に、学校を通じて派遣生の募集がはじまります。異文化を体験できるまたとないチャンスです。意欲のある皆さんの参加をお待ちしています！

岡市民活動課 ☎8226・1111 内線2030



ホームステイ受け入れを体験して



今回パロアルト市からのホームステイの受け入れを体験し、たくさんのことを学びました。3月にパロアルトを訪れた後、3か月ぶりに土浦でバディのEmmyと再会し、共に過ごした日々は、毎日がとてもかけがえのない時間となりました。毎晩ランプやゲームなどを楽しみ、たくさん触れ合うことで、本当の家族のような気持ちになりました。また、一緒に中学校へ行ったり、ホストデイにはみんなで東京ディズニーシーへ行ったりと、とても貴重で楽しい時間を過ごして、Emmyは私の大切な親友になりました！

英語でのコミュニケーションでは、日々の会話やジョークを通じて、自分の英語が通じる嬉しさを感じました。

今でもEmmyと連絡を取り合っています！そしてまたいつか、彼女に会いに行きたいと思っています。

土浦第二中学校 東原羽杏